

一期一会

東京国立近代美術館長
元文部省初等中等教育局長

辻村 哲夫 氏



教育随想

学校は季節感に溢れた所である。特に春は学校全体の気分を一新し、決意を新たにさせてくれる時だ。

年々歳々、花相似たり
歳々年々、人同じからず

その春。どの子も、更に言えばどの親も、最も緊張するのが、担任の先生の発表の瞬間である。偶然の出会いでありながら、一年間の生活の中核部分を託すことになるのだから、当然と言えば当然であろう。

先生の言動一つで子どもは励まされもすれば、元気をなくしもする。それは親も同じである。どんなに学校の仕組みが変わろうと、最も大切なことは教師と子どもとの間にしっかりとした信頼関係があることである。子どもを育てるのはもちろん担任一人ではない。しかし、学校生活

で時間的にも精神的にも、圧倒的に影響を受けるのは担任の教師であることは間違いない。

可塑性に富む子どもを手塩にかけて育てていくのは随分と辛抱のいる仕事である。世話を焼かせる子どもが必ずいる。しかし、真剣に取り組む教師の姿勢は誰もが分かっている、感謝をしているのである。

子どもにとってどの先生との一年間も掛けがえのない思い出になるものである。この一年間、それぞれの出合いを大切に、日本一のクラスづくりを目指してほしい。

この四月から、週五日制の学校生活が始まる。この新しいリズムと岡崎の恵まれた伝統と文化と自然の利を生かして、新学習指導要領の目指す「生きる力」をしっかり

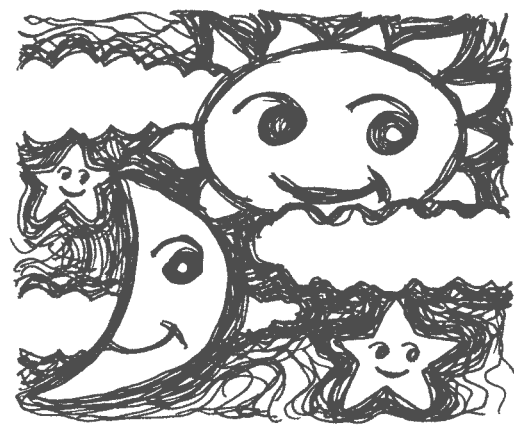


月報
岡崎の教育

平成14年4月1日
4月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
東京国立近代美術館長 元文部省初等中等教育局長 辻村 哲夫氏	
この人に聞く	2
富田 正光氏	
羅針盤	2
葵中学校長 澤 博史	
ふれあい	3
本宿小 鈴木慎一郎 常磐中 渡邊 政則	
特集	4
平成14年度 学校教育の視点	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
剣道による鍛錬 (大正6年)	
この本を	8



培ってほしい。そして一年後、一段と成長し、自らに誇りを持った岡崎っ子を、次の担任に確信を持って送り出してほしいと思う。

(つじむら てつお)



広告美術一筋三十年

富田 正光 氏

「ものづくり」「ひとづくり」の匠として、昨年国土交通大臣から優秀施工者顕彰を受けられた富田さんにお話を伺った。

「最初の五年は筆も持たせてもらえず下仕事ばかりでした。大工に左官、土木に塗装、装飾など、何でもやりました。看板一つ仕上げるにも木を削って板を作るところから始めたのです。」

中学時代書道部に属し、好きなことを生かそうと選んだ広告美術の道。「釘がばらばらだったり、木の削

り方が荒かったり、最初の工程がいかがいだと最終的にいい仕事はできません。一見地味なことを一生懸命やる大切さを学びました。」と、この業界に入ったときのことをしみじみと振り返る。

昔は映画館に掲げる俳優の看板を手がけることも多かったが、今は主に催事物の看板や横幕など文字の仕事が多いと言う。パソコンの普及もあって、客が、「こういうレイアウトで頼みたい」と細かく指定してくる場合も増えてきたそうだ。

仕事に対する心構えをお聞きした。「私は職人です。お客様に満足していただける仕事を心掛けています。ですから、製品を納めたとき、私の仕事を気に入ったとほめていただけると、やはりうれしいですね。」

平成五年には「一級技能士全国技能競技大会」の広告美術部門に県代表として出場。十時間かけて大看板を描きあげ、見事全国二位の栄冠に



も輝いた。

国土交通大臣顕彰とは、特に優れた技能技術を持ち、後進の指導や育成にも大きく貢献している人を表彰する制度である。平成四年から始まり、今までに全国で約三千人が顕彰され「マスター」の称号を受けている。広告美術の分野では、初の荣誉である。

後進の指導で気を付けていることを伺った。

「まずは、自分がしっかりした仕事をすることです。見て学んでもらうというのでしょいか。もちろん聞かれれば教えますが、『こうやってやれ』なんて細かくは言いません。自分もまだまだ勉強していかなければならぬ身ですから。でも、『任せられる人』を育てたいです。職人に終わりはありません。」

自分の仕事への誇りと責任、自信からくる言葉には重みがある。

最後に、未来ある若者に向けて次のメッセージを贈ってくださいました。「だれにも、人生の中で輝くチャンスが必ずあるはず。それを生かすために今を大切にしてほしい。」

氏名 富田 正光
生年月日 昭和三十年十月三十日
住所 青木町六一三〇



今、教師に問われているものは

葵中学校長

澤 博史

平成十四年四月一日を期して、新学習指導要領による教育活動が開始された。ここに至るまでの移行期間中、伝達講習や校内研修により制度の意義や内容は周知されてきた。しかし、果たして子供たちにどう指導していくのか。新学習指導要領の趣旨を明確に生かした、日々の教育実践はなされていくのであろうか。

二十一世紀を担う子供たちの育成に最善の制度であっても、それを指導するのは我々教師である。その責務は、教師一人一人の肩に重くのしかかってくる。今、教師に問われている課題は山積している。

その第一は、授業への姿勢である。教師の命は、日々の授業である。子供たちがやる気を持って課題に取り組む、辛くとも最後まで頑張り抜い

お礼の言葉

本宿小 鈴木慎一朗

「先生、ありがとうございます。」
体育館の方から聞こえてくるA男の大きな声が、私の心を実にそう快にしてくれた。

A男は、おしゃべりで落ち着きがないので、授業中も度々注意される。しかし、ひょうきんな子で憎めない。その日、A男は、お気に入りのジャンパーをどこかに置き忘れて困っていた。

部活指導のため、音楽室に向かうとした途中、昇降口の辺りにA男のジャンパーが落ちていた。遠回りになるが、A男のお気に入りのジャンパーなので、体育館で部活をしているA男のところへ届けに行った。体育館の扉を開けると、A男がすぐ



に見付からなかった。近くにいるA男の友人に預け、体育館を後にした。

ばらくすると、大きな声でお礼の言葉が返ってきた。

翌日の朝の会で、この出来事を話し、みんなの前でA男を褒めた。学級のみんなからも拍手を受け、A男は照れくさそうにしていたが、表情はほほえんでいた。

感謝する心の大切さが叫ばれるなか、A男から「ありがとうございます」という言葉のよさについて教えてもらった。「A男、ありがとうございます。」



輝いてほしい

常磐中 渡邊 政則

「稲の苗はこう植えるといいよ。」
普段、おとなしいA男が、泥まみれになりながら元気いっぱい活動している。常磐小の学校田で、姉妹学級の五年生に、A男が目を輝かせて田植えを教えている。家庭で農作業の手伝いをよくするA男は、みんなが知らない農業の知識を豊富に持っている。

「田んぼの水はけは、こう溝を作

っておくと、ちょうどいいよ。」
手際よく溝を掘っていく姿は、自信に満ちあふれている。クラスで活動するときの様子からは、とても想像できない姿である。子供はどこかで輝いている。



田植え後、この体験をパソコンを使ってホームページにまとめていく。泥まみれになるのを嫌がっていたA男のペアである小学生の子も、パソコン操作では、が然張り切っている。

「ここは、デジカメの写真を張って、こつちには絵を描こう。」
ペアの小学生と楽しそうに話し合いながら、次々ときれいに仕上げていく。

「先生、見て見て。かつこよくできたでしょう。」

うれしそうに声を掛けてくるA男に、思わず「すごいね」と思いつ切り笑顔を返した。

た時の充実感、達成感は何物にも代えがたい。授業を通して、知的世界を広げ、個性や能力を高め、子供を鍛えていく真摯な教師の姿勢が望まれる。

その二は、教師の情熱である。やる気のある教師の教室から、やる気に満ちた子供は生まれる。教師の姿勢は、知らず知らずの内に子供の心に伝播する。常に、教師自身が研修に励み子供に尽くす、積極的な姿勢であってほしい。

その三は、教師の人格である。純粹な子供たちが将来のモデルとして、心から信頼できる教師でありたい。教育の場は、人と人の触れ合いの場である。教師の人格は、純真な子供には敏感に伝わる。子供時代に、心の奥底に固く刻み付けなければならない誠実さや正義感を、教師自らがここという時に發揮出来なければならぬ。笑いの起こる明るく楽しい学級、それは教師自身の明るさにある。

いくら制度が変わっても、それを運用する教師自体が変わらなければ、未来を担う子供の成長はあり得ない。この四月は、教師の心の大きな切り替えの時である。



平成14年度 学校教育の視点

今年度の四月、学習指導要領は移行期における全ての試行を終え、完全実施の運びとなった。

学習指導要領のねらいを実現するために、各学校は、自らが敷いた踏切板から大きく踏み出すときを迎えた。この踏み出しを確かなものにするのが学校に求められている。

私たち教師は、保護者や地域の人々との連携の中で、児童生徒の優れた個性と能力を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成が図られるよう、全力を尽くすことが使命となる。

一 学ぶ喜びを知り、自ら学び考える力を育てる。

人は生涯にわたり学び続けることが大切である。義務教育は、その「学び」の土台を築くという極めて重要な役割を担っている。

子供には、本来、知りたい、分かってほしい、できるようにしたいという欲求がある。その欲求を、学ぶ楽しさ、喜びとして高め、意欲をもって生涯を生きぬく基礎的な力の定着を図るために、次の二点に留意して指導したい。

第一は、周囲を取り巻く学習事象

について、自分なりに気づき、目を向け、課題意識をもって追究できる力を伸ばすことである。日常的な事象について、敏感に感じ取る感性を磨き、課題意識を高めたい。それによって、もっと知りたい、調べたいという意欲が強くなり、意欲的な学びが促進される。学びについては、常に、評価の観点や基準に照らし合わせて、個々の学びが確かなものになっているかを見極める必要がある。

第二は、基礎的・基本的な内容の厳選である。子供が生涯にわたって成長と発達をしていくための基礎・基本を明確に押さえ、必要なことを繰り返し学ぶことができるように支援して、その定着を図りたい。

子供一人一人が主役になり、個性と学びを伸ばすことのできる授業を実現させることが重要となる。

二 正義感と倫理観を備え、他を思いやる豊かな心を育てる。

子供を取り巻く生活環境は、日々、著しく変化している。変化に対応し、人として豊かに生きられるようになるための資質と能力を、他とのかかわり合いを通して育み、磨きあげていくことが求められる。



学校教育に求められているものは、児童生徒が生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、児童生徒のすぐれた個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成して、子供が喜んで通うことのできる、魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を確立し、学校と家庭と地域との連携を図った教育の創造に努める。

指導の重点

- 一 学ぶ喜びを知り、自ら学び考える力を育てる。
- 一 正義感と倫理観を備え、他を思いやる豊かな心を育てる。
- 一 自らを律し、たくましく生きる力を育てる。

特に、人とかわる場面においては、感動する心、感謝する姿勢をもつことが大切である。誠意ある行動がとれば、相手は心地よく受け止めることができる。感動・感謝の心も育まれることになる。そのことが起点となって、互いの信頼関係が深まり、人としての豊かな心が醸成されていく。

また、教師の人間性が、子供の人格形成に与える影響力は大きい。子供は、いつも教師の表情や行動に目を向け、心を動かしながら成長している。教師自身が正義と倫理を貫き、自己研鑽に励み、子供の手本にふさわしい豊かな心と人格を磨きあげたい。

三 自らを律し、たくましく生きる力を育てる。

社会情勢が急激に変化し、価値観が多様となっている今日では、規範とすべき事柄が見えにくく、見失いがちになることさえも多々ある。このような時代であればこそ、自らを律し、たくましく生きることの必要性を感じ取り、確かな力として身につけさせる必要がある。

その第一は、基本的な生活習慣の

定着を図ることである。学校における集団生活の場で、他とのかかわりを通して自らを見つめ、自己のあり方を考え、見いだすことができる力を伸ばしたい。また、日常的に善悪について判断する機会を設け、自己の規範意識を高めながら、自立する心を育てることが大切である。

第二は、ねばり強く困難に立ち向かう精神力を身につけることである。いやなことがあっても、失敗をしても、それをバネにして困難を克服するだけの強い心とたくましさをも身につけたい。その実現においては、日常生活での具体的な体験の積み重ねを大切にして、一人一人に応じた適切な支援をすることが不可欠となる。

以上、三つの指導の重点にそった教育活動を進めるにあたっては、教師は教育の専門家としての使命感をもち、愛情に満ちあふれたねばり強い実践力を発揮する必要がある。各学校においては、校長のリーダーシップのもと、指導体制の確立を図り、全職員一丸となった子供の健全育成を展開したい。そして、教育活動のありようを常に評価しながら、夢のある学校づくりに邁進したい。

●表彰

◆全国視聴覚教育連盟功労者表彰

学習情報部長

(前矢作中学校長) 二村 邦彦

◆第十四回リトルアーティスト絵画コンクール

金賞

竜美丘小五年 熊澤 佑輔

朝日新聞社賞

本宿小六年 横井 涼也

銀賞

葵 中一年 松原 由幸

甲山中一年 平松木綿子

◆第三十四回手紙作文コンクール

●はがき作文部門

郵政事業庁長官賞

緑丘小六年 小山田真之



▲リトルアーティスト展 金賞 熊澤佑輔



▲リトルアーティスト展 朝日新聞社賞 横井涼也

東海郵政局長賞

緑丘小一年 三浦奈津子

◆第八回新聞切り抜き作品コンクール

優秀賞(小学生の部)

矢北小五年 中村 真紀

岩川 翔

古田 知也

◆第八回学校・学級新聞コンクール

優秀賞(教師の部)

六ツ美中 伊藤 研治

◆とよしん育英財団の表彰

教育文化賞

美合小学校

常磐中 天野 幸輔

教育文化奨励賞

六ツ美北中学校

竜海中学校

竜美丘小学校

◆期待の新任教員 四十八名

平成十四年度岡崎市小中学

校新規採用教員は、四十八名

(男子二十四名、女子二十四名)。

新任教員の配属は、次のとおりである。

・小学校(二十三名)

緑丘小 児嶋 美紀

中野 隆仁

笠間 大樹

牟田 秀章

安藤 総子

川端 尚子

山川 温子

池田 義和

山本 綾子

伊藤 将生

伴 巨裕

増田 恭伸

牧野 節子

畔柳亜紀子

酒井 智之

米澤 篤司

正木 美佳

川原場仁子

鶴巻 司

成田 志津

北野小

六美北小

北野小

六美西小

永坂 茂樹

永井貴久子

荻原 正直

甲山中

岡井真利子

犬塚 学

美川中

高木 美里

南中

大嶋 薫

中山 伸幸

竜海中

市川 江梨

大原 隆司

葵中

石川亜希子

福岡中

長坂 晃裕

難波 晴子

東海中

向山 香

岩津中

松下 佳生

高田 桃子

伊藤 典隆

矢作中

大山 雅之

本多 光恵

伊与田仁子

大竹 蔵人

新香山中

川渕 一

六美北中

松井 久

小野田全伸

委員 長

加藤 政幸

副委員長

三浦 司

書記 長

中村 公治

書記次長

福田 貴子

組織部長

児玉 洋行

情宣部長

加藤 嘉一

教文部長

清水 良隆

福対部長

神谷 明良

調査部長

坂元 千城

会計委員

長谷川勝一

女性部長

志賀 敏子

青年部長

安部 朋彦



▲新任教師の集い 少年自然の家 3/27・28

・題
・タイトルバック
・カ
・ツ
・ト

フォト・ヒストリー

岡崎の教育

剣道による鍛錬

(大正6年)

この写真は、現在の連尺小学校の前身、岡崎市連尺尋常小学校での剣道の授業風景である。

高学年の男子児童であろうか、運動場の片隅に集まり、木刀を構えて、一生懸命に剣道の練習に打ち込んでいる。指導している先生のまなざしも、真剣そのものである。

当時、ヨーロッパは、第一次世界大戦の最中であり、大正七年には、日本もシベリアへの出兵を宣言している。こういった社会の情勢を考えると、鍛錬により、子供たちの心身を鍛えようとしていたことがうかがわれる。



写真提供 連尺小学校

岡崎市教育長 藤井孝弘
六ツ美中 青木貴之
岡崎小 原田雅文

この本を

- * 子供は無限に伸びる 陰山 英男 ￥1400
PHP 研究所
- * 原点を見つめて 曾野 綾子 ￥1600
祥伝社
- * 優しい心が一番大切だよ 小森美登里 ￥1500
WAVE 出版
- * 仕事が人をつくる 小関 智弘 ￥750
岩波新書

* ドリームバスター 宮部みゆき ￥1600
徳間書店

今、最も話題の中心になっている作家である。快樂殺人者と、それによって苦しめられる犯罪被害者を描いた『模倣犯』で、昨年の各種ベストテンを総なめし、司馬遼太郎賞を受賞。『理由』では直木賞。

「ミステリーがたまらなく好きで作家になった」という、若干41歳の若い作家である。時事、特に現実に起こっている残酷な事件に関心を寄せ、作品を通して鋭い視点で読者に迫ってくる。

『ドリームバスター』は、軽い語り口ではあるが、宮部作品を知るにはうってつけの短編集である。

桜花の通学路。仲間が遅れまいとして走り、急に赤や黒の真新しいランドセル。車による送迎から自分の足で。ぎこちなさはあるが、確かな一歩を踏み出した。車窓から眺めるのとは異なり、季節の風と薫りを肌で感じ、様々な発見が彼らを大きく育てるに違いない。

シオ スア

新教育課程がスタートした。学習内容の厳選や授業時数の削減により、学力低下が危ぐされている。このことは、授業に取り組む教師の姿勢と力量が問われることを意味する。

教材研究の重要性を改めて認識し、教師の資質向上を目指して授業に臨みたい。

あぜ道で、ツクシやタンポポを摘みながら帰った昭和三十年代の小学生。今、そうした風景は少なくなっている。しかし、いくら時代が変わっても、桜の季節や若葉の季節は忘れずにやってくる。

教育にも季節にも、変わらないものがあることを再確認したい。

住み込みの修業時代、車の側面に文字を書くにも、下手だとすぐ先輩に消された。先輩を追い越したいという目標を立て、地道に努力したので、今の自分があると、控えめに話す富田さん。

基礎・基本が大切なのは、職人の世界も教育の世界も共通である。